



スマホであつめよう！

# なごやいきものクエスト

## 2025 Report

---



スマホで撮影したいきものの写真を投稿するといきものの種類をAIが判定するアプリ「Biome」を活用し、名古屋市内の身近ないきものを探すオンライン参加型イベントを開催しました！

## 実施期間

2025年5月25日  
～8月31日  
(99日間)



コルリ  
©モアイおじさん

## 投稿数

30,423件

## みつけた数

4,212種



ヤマトシジミ  
©マドリガル

## 参加者数

1,742人



ノコンギク  
©N city roller

## 使ったツール

ツール：スマートフォンアプリ  
「Biome (バイオーム)」

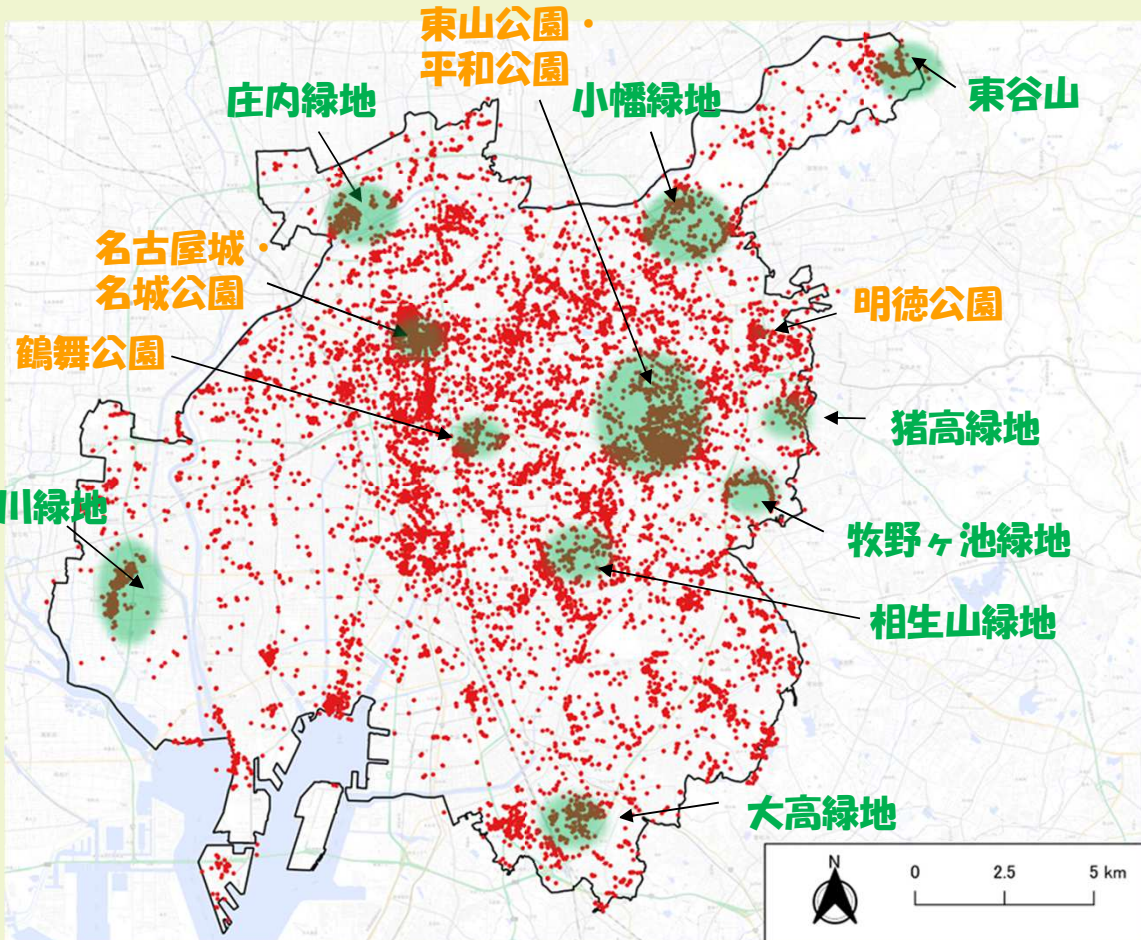
詳細はこちら→



ツマグロヒョウモン  
©わきわきわっきー

たくさんのいきものほどこで見つかったのか、市内の投稿が多かった場所をまとめてみました！

## 名古屋市内の投稿があった場所



地理院タイル（ベースマップ 淡色地図）を加工して作成

## 区別投稿数ランキング



**東区**

**5,075**投稿

明和高校周辺での投稿が目立ちました！



**千種区**

**3,981**投稿

東山公園では1,422件の投稿がありました！公園投稿数ランキングで1位！



**緑区**

**2,751**投稿

大高緑地は昨年公園投稿数ランキング5位でしたが、今年は3位に！

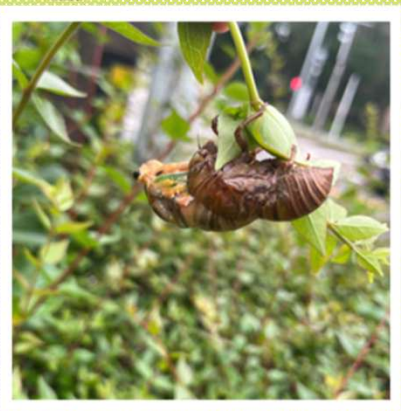
どんないきものが見つかったのでしょうか？投稿されたいきものの一部をまとめてみました！

## いきものランキング



**クマゼミ**

**389**投稿



©コシマゲンゴロウ

3年連続で1位を  
獲得しました！

体の大きさは  
60～70mmほど。  
都市部の公園  
や林などでみ  
られます。



**エノコログサ**

**334**投稿



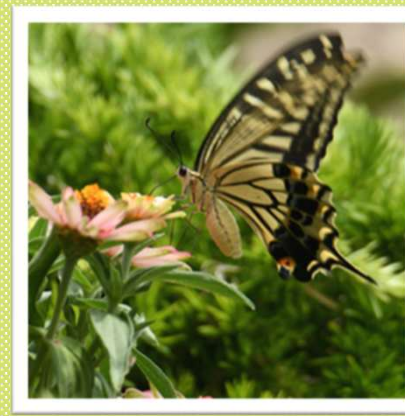
©奇妙丸

昨年に引き続き  
2位となりました！  
猫じゃらしの名  
でも親しまれて  
います。穀物の  
粟の原種である  
とされています。



**ナミアゲハ**

**273**投稿



©モアイおじさん

人家周辺でも普  
通にみられる  
チョウです。単  
にアゲハともい  
われ、幼虫は柑  
橘類やサンショ  
ウなど、ミカン  
科の植物につき  
ます。

**4**

**ヒメジョオン**

**255**投稿



©Sankotyo

北米原産の一年  
生草本。  
侵略的外来種で  
す。

**5**

**アブラゼミ**

**224**投稿



©ノースタウン

市街地でも見られ、  
夏の虫として親し  
まれています。ケ  
ヤキやサクラなど  
に集まります。

**6**

**アオスジアゲハ**

**206**投稿



©Nexus6446

温暖な地域に分布  
します。  
クスノキ科の常緑  
樹を主な食樹とし  
ています。

## 希少ないきもの

ヒバカリ II類 2投稿

水田、湿地など水辺でよく見られる。無害でおとなしいヘビだが、俗説では猛毒を持つと信じられ、和名は、「噛まれたら命はその日ばかり」という言葉に由来する。



©detaka@釣り師

絶滅危惧レベル (レッドデータブックなごや2025)

準絶滅危惧

II類

I B類

I A類

(生息条件の変化で絶滅危惧)

(絶滅の危険が増大)

(絶滅の可能性が極めて高い)

トノサマガエル II類 4投稿

©モアイおじさん

本州、四国、九州の田んぼなどでみられる。「グルルル、グルルル」と鳴く。主に節足動物を食べるが同種他種問わず子ガエルも食べる。



シラタマホシクサ IB類 1投稿

日本の固有種で東海地方の一部地域の湿地などに生える。

©yuki1216

## 特定外来生物

クビアカツヤカミキリ

44投稿



©にじいろたろう

サクラ類などのバラ科の樹木に飛来し、幼虫はその材を食べて枯死させることがある。街路樹や果樹園で被害が発生し、問題となっている。

19投稿 セアカゴケグモ

メスは毒を持ち、咬まれると痛むほか、重症化する可能性もあり、注意が必要。道路の側溝や駐車場の隅など、人工的な環境に網を張っていることが多い。



©まいずみ

ウシガエル 17投稿

大正時代に食用ガエルとして輸入・養殖されたが、やがて野生化した。「ヴォォヴォォ」というウシに似た低い鳴き声が名前の由来。成体は小鳥や小型哺乳類まで捕食する。

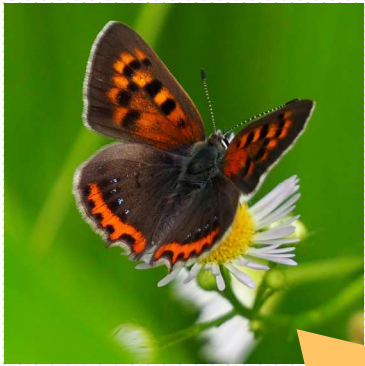


©モアイおじさん

# チョウを呼ぶまちプロジェクト

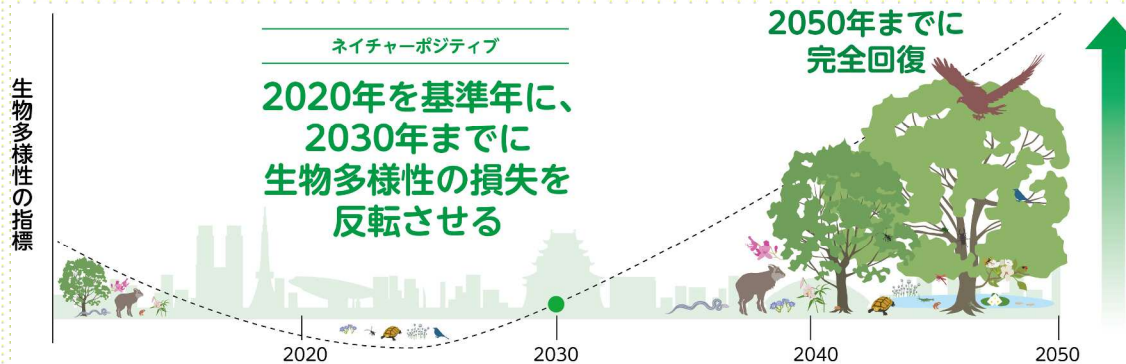
チョウが花から花へと飛んでいくとき、その体には花粉がついて一緒に運ばれて行きます。ミツバチやチョウなど花粉を運ぶ生きものを「送粉者」といいます。送粉者がいなくなると、野菜や果物などの農作物の生産に影響を及ぼし、私たちの毎日の食生活も今まで通りにはいなくなってしまいます。

チョウの幼虫は植物の葉っぱを食べて成長しますが、チョウの種類によって好きな葉っぱ（食草・食樹）が異なっています。そのため、食草・食樹を意識しながら、庭づくりを行うことで、ねらったチョウを呼びこむことができる可能性が高くなります。



ベニシジミ  
©nakagawa2219

幼虫はスイバ・ギシギシなどの葉を食べる



ホシミスジ  
©QUAKE

幼虫は、ユキヤナギやシモツケにつく

「チョウを呼ぶまちプロジェクト」の目指す先には、生物多様性（生きものの豊かな個性とつながり）を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」という世界目標があります。身近なチョウといういきものから、いきものつながりの大切さを感じてみませんか？